

大豆管理情報（第2号）

令和7年7月16日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

（1）気温

5月下旬の平均気温は、17.8℃（対平年差-1.2℃）と平年に比べ低かった。

6月の平均気温は、23.4℃（同+2.0℃）と平年に比べかなり高かった。

7月1～3半旬の平均気温は28.0℃（同+3.6℃）と平年に比べかなり高かった。

（2）降水量

5月下旬の降水量は、40.5mm（対平年比112%）と平年並であった。

6月の降水量は、129.0mm（同75%）と平年並であった。

7月1～3半旬の降水量は26.0mm（同18%）と平年に比べかなり少なかった。

梅雨入りは、6月10日（前年6月22日、平年6月11日）と平年並であった。

（3）全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、16.8MJ/m²/日（対平年比88%）と平年に比べ少なかった。

6月の平均全天日射量は、18.2MJ/m²/日（同105%）と平年並であった。

7月1～3半旬の平均全天日射量は、21.9MJ/m²/日（同142%）と平年に比べかなり多かった。

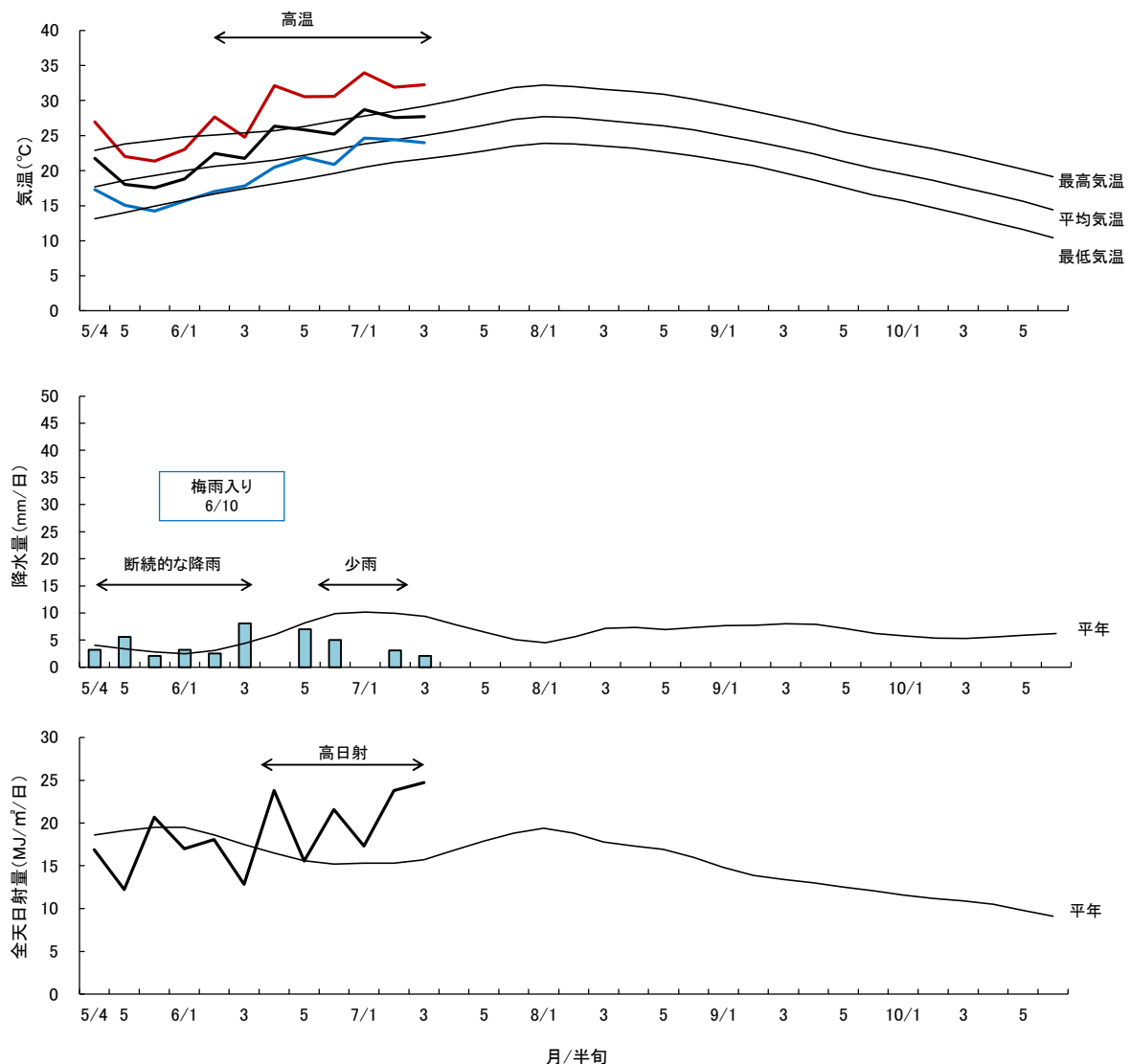


図1 令和7年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育経過（生育観測ほデータ）

（1）エンレイ（単作）

近年に比べ、主茎長はやや長く、本葉葉数は1.1葉多く、一次分枝数は0.2本少なくなっている。
5月末に播種されたほ場で開花期を迎えている。

（2）エンレイ（麦あと）

近年に比べ、主茎長はやや短く、本葉葉数は0.1葉多く、一次分枝数は0.1本多くなっている。

（3）シュウレイ

平年に比べ、主茎長は並、本葉葉数は0.8葉多く、一次分枝数は0.4本多くなっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月16日現在）

品 種	年 度	播種日 (月日)	栽植本数 (本/㎡)	培土(月日)		主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	開花期 (予想)	
				1回目	2回目					
エンレイ	単作	R7	6月1日	16.7	6月25日	7月5日	53.9	9.7	0.5	－
		R6	6月5日	17.7	6月30日	7月4日	50.0	8.9	0.6	7月18日
		近年	6月2日	16.6	－	－	50.0	8.6	0.7	7月19日
		近年比・差	－1	100	－	－	108	1.1	－0.2	－
	麦あと	R7	6月7日	16.1	7月2日	7月12日	38.5	7.9	0.8	－
		R6	6月7日	16.4	7月6日	7月19日	42.3	8.1	0.8	7月19日
		近年	6月5日	16.8	－	－	42.6	7.8	0.7	7月20日
		近年比・差	2	96	－	－	90	0.1	0.1	－
シュウレイ	R7	6月9日	11.7	6月24日	7月4日	37.4	7.2	0.8	－	
	R6	6月7日	11.7	7月5日	7月17日	45.4	8.2	0.9	7月19日	
	平年	6月6日	14.9	－	－	36.5	6.4	0.4	7月23日	
	平年比・差	3	79	－	－	102	0.8	0.4	－	

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作2、麦あと1)

注2) 平年値はH27～R6、近年値はR2～6

注3) 平年比(近年比): 栽植本数・主茎長、平年差(近年差): 播種日・本葉葉数・一次分枝数

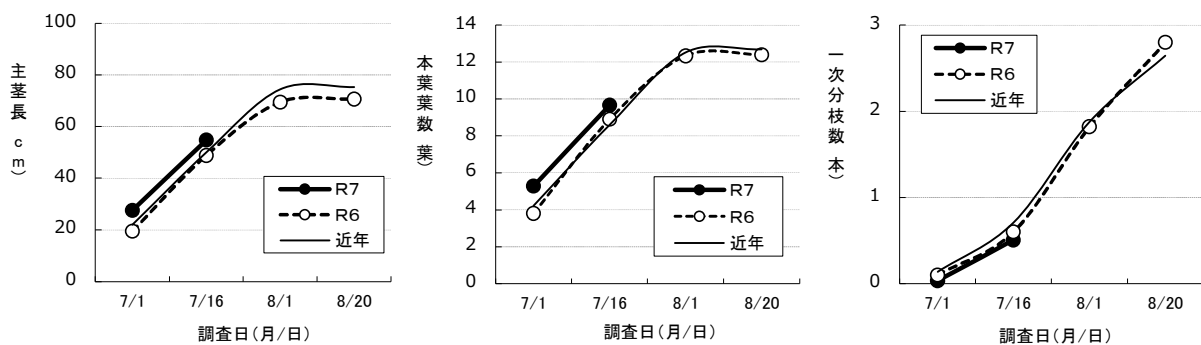


図2 単作エンレイの生育の推移

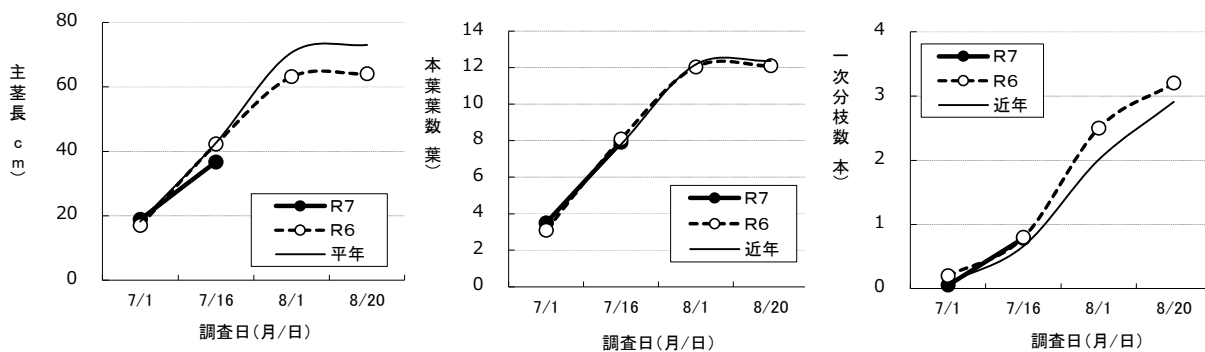


図3 麦あとエンレイの生育の推移

3 当面の技術対策

- ・ほ場内の水が停滞しないように排水口の点検や溝の手直し等を行い、排水対策を徹底する。
- ・2回培土が完了していないほ場は、速やかに実施する。
- ・高温・少雨がが続いていることから、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施する。

(1) 排水対策

- ・湿害の回避や速やかな培土作業の実施、開花後の畦間かん水時の入排水を滞りなく実施するために、ほ場内の水が停滞しないように排水対策を徹底する。

(2) 培土

- ・生育量の確保と雑草の発生を抑制するため、2回培土が完了していないほ場では速やかに実施する。
- ・株元まで確実に土寄せを行い、培土の効果を高める。
- ・ほ場内に水が停滞しないように、培土でできた溝を額縁排水溝や深く掘り下げた排水口にしっかり連結する。



写真1 畦間と額縁排水溝を連結し、排水を促進

(3) 畦間かん水

- ・高温・少雨がが続いていることから、3日以上晴天が続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施する。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉めて速やかに排水する。
- ・用水が下流域まで行き渡るように、地域での計画的かつ効率的な水利用に努める。

【畦間かん水の効果】

- ① 英数の確保: 落花・落英の防止(青立ちの発生防止)
- ② 百粒重の増加: 根の養水分吸収量の増加、光合成の促進
根粒による窒素固定能の維持
- ③ 品質の向上: ちりめんじわ粒の発生防止
莢ずれ粒(高温に伴う物理的損傷)の発生防止



ちりめんじわ粒



莢ずれ粒

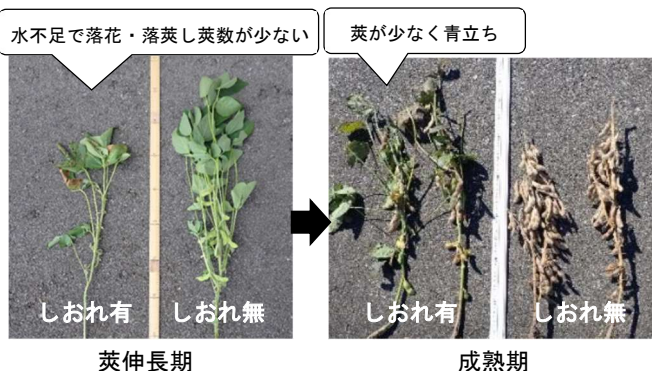


写真2 開花期以降の水不足により落花・落英した大豆(R5現地ほ場)

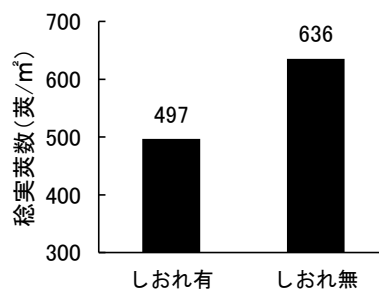


図4 開花期以降の水不足が英数に及ぼす影響(R5現地ほ場、成熟期調査)
注) 開花期翌日～8月下旬までの降水量: 37 mm

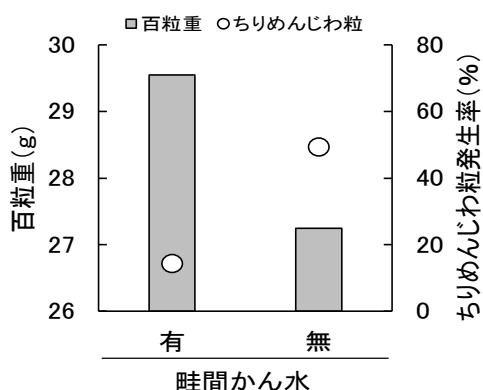


図5 畦間かん水の有無が百粒重及びしわ粒の発生に及ぼす影響(H24富山農振セ)
注) 畦間かん水有: 8/4、8/20の2回実施

(4) 病害虫防除

ア 黒根腐病

- ・過去に多発したほ場では被害が大きくなる。また、土壌水分が高い場合は早い時期から発病する。
- ・有効な薬剤がないため、特に常発地では排水対策を徹底する。

イ 葉焼病

- ・強風雨で蔓延し、多発すると収量・品質が低下する。
- ・発生初期に「Zボルドー」等で防除する。シュウレイは発病しやすいため7月下旬頃に予防的に防除を行う。

ウ ウコンノメイガ

- ・生育の旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発する傾向がある。
- ・7月6半旬に幼虫による葉巻を確認し、1株当たり平均6個以上の葉巻があれば、速やかに「ダントツH粉剤DL」や「プレバソンフロアブル5」等で防除する。

エ ハダニ類

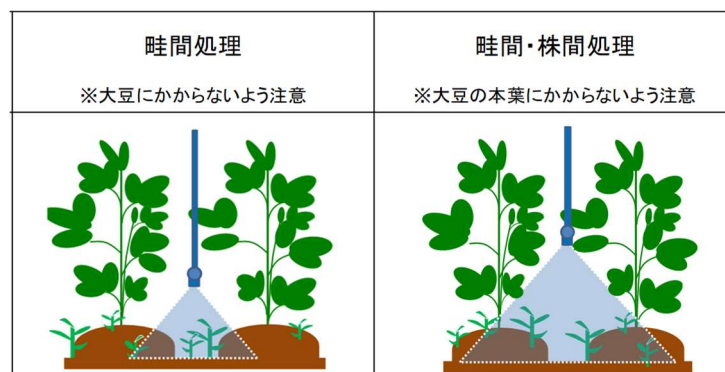
- ・高温・乾燥で多発する傾向がある。多発すると粒が小粒化し減収する傾向があるため、8月上旬～中旬にハダニによる葉の黄化がほ場の1割程度みられる場合は、葉の裏に薬剤が十分かかるように速やかに「ニッソラン水和剤」等で防除を実施する。

(5) 雑草防除

- ・2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・大豆の生育が進むと株元の雑草への薬剤付着率が低下するため、茎葉処理剤の全面散布では、有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。
- ・難防除雑草（帰化雑草等）が発生するほ場では、草種に応じて防除効果の高い除草剤を散布する（参考表1、2）。
- ・畦畔や農道等、ほ場周辺で難防除雑草の発生がみられる地域では、開花・結実前に非選択性茎葉処理剤の散布や地際からの刈取り等の防除を行う。

【吊り下げの専用ノズルを使用する際のポイント】

- ・大豆や雑草の大きさ、処理方法によりノズルの高さや角度を調整する。
- ・雑草全体に除草剤が付着するように散布する。



(参考) 表 1 大豆の生育期処理除草剤

種類	適用雑草	除草剤名	使用方法		使用時期			使用回数	除草効果についての留意点
					時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数		
選択性除草剤	1年生イネ科雑草	ナブ乳剤	雑草茎葉散布	全面散布	雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	30日前まで	1回	・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。 ・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない。
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	60日前まで	1回	
		ポルトフロアブル			雑草生育期	イネ科雑草3～10葉期	30日前まで	2回	
	1年生広葉雑草	大豆バサグラン液剤			大豆2葉期～開花前	雑草の生育初期～6葉期	45日前まで	1回	・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツユクサ科の雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。
		アタックショット乳剤			大豆2葉期～開花前	雑草生育期	45日前まで	1回	・ヒユ科、ナス科、スベリヒユ、イチビ、帰化アサガオ類以外の一年生広葉雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード		畦間処理	雑草生育期	－	前日まで	2回	・吊り下げの専用ノズルを使用する。 ・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。
		ザクサ液剤					28日前まで		
		バスタ液剤	畦間処理	雑草生育期	－	28日前まで	ザクサとバスタをあわせて3回以内		
			株間処理	大豆5葉期以降 雑草生育期					
		ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布	畦間・株間処理	大豆3葉期以降 雑草生育期	雑草の草丈15cm以下	30日前まで	1回	
	1年生広葉雑草	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	雑草生育期	－	7日前まで	2回	・専用器具を使用する。 ・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10～15cm部分に行う。	

(参考) 表 2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する除草効果（目安）

草種	茎葉処理剤					茎葉兼土壌処理剤
	選択性		非選択性			ロロックス
	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤	バスタ液剤	ザクサ液剤	ラウンドアップマックスロード	
	全面散布	全面散布	畦間処理 株間処理	畦間処理	畦間処理	
帰化アサガオ類	▲（種間差あり）	▲（種間差あり）	○	○	▲	▲（種間差あり）
ヒユ類	▲（種間差あり）	○	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲（種間差あり）	○	○	○	○	○

注 1) ○：効果が高い ▲：効果が劣る

注 2) 登録内容（適用、使用方法等）を確認して使用する。非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように散布する